

掲示板

拝めば光って  
来る世界  
棟方志功

赤羽別院掲示板より



赤羽別院報 第7号

発行所

真宗大谷派 赤羽別院 親宣寺

発行人 野々山 洪美

愛知県幡豆郡一色町赤羽上郷中14

Tel. Fax (0563)72-2308

印刷/榎教育広報センター

シリーズ

人間模様

7

蒲郡市 粕谷信子・鉄雄さん親子

昨秋、赤羽別院にて七十余名の方々が帰敬式を受式された。その中に粕谷信子さん、鉄雄さん親子の姿もあつた。「歩み始めた間法生活を確認させて頂く絶好の機会でした」と語る鉄雄さん。仏法に出会い、自分を見つめ直すことができたお二人にお話を伺った。

鉄雄 父が亡くなり、手次寺のご住職と接する機会が増えました。その頃、青壮年を対象にした『元氣塾』のお誘いを受け参加したんです。仏事の大切さ、日常生活のあり方などを学びました。

—帰敬式はご自分から受けられたのですか。

鉄雄 法名は死んでからもらうものだと思っていましたから、最初は妙な感じがしたんです。でも、ご住職から話を伺っているうちにこれはチャンスだ、この機会を逃がす手はないと思つたんです。母が元氣なうちに一緒にとの願いもあつて、二人で受けることにしました。

信子 私も息子から話を聞き、反省しましたね。ずっと生活に追われる日々でしたから、立ち止まって考えることもなかったです。でも、感謝の心、血縁の深さなど主人が亡くなって初めて気付きました。勝手なものですね。生きていけるうちは何とでも



—受式後の生活はいかがですか。

鉄雄 帰敬式はとても気持ちが変わる場でしたね。何よりのご縁を頂きました。生活そのものに変わりはないと思うのですが。

ただ、以前よりも蓮如上人のことを知りたいと本を読むことが多くなりましたね。

信子 感謝の気持ちが深まつた気がするんです。仏事に關しては亡き義母の後姿を見ても、きましたから思いがあるんですかね。親子でお参りできる喜びを実感しています。

—現在、課題とされているこ

とはございますか。

鉄雄 私は父の死が機縁となり毎日のお勤めや日々の暮らしで合掌するのが当たり前ですが、もし、身内に不幸がなく、身につまされることがなければどうでしょうか。おそらく仏法とは無縁な存在ですかね。時々、ふと考えることがあるんです。

信子 父母が大切にしていた仏様を敬う心を受け継いでいきたいですね。一生勉強ですよ。

—聞法会などで感じられることは何ですか。

蓮如絵伝を読む(7)

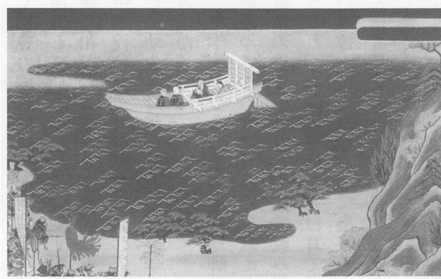
碧南 青木 馨

—吉崎退去—

吉崎の坊舎建立後、急速に加賀・越前の門徒も増大し組織化されていった。これと時同じくして、京都に端を発した応仁の乱は、この地方の守護富樫氏の内紛にも波及し、ここに門徒組織も巻き込まれていくことになった。世に言う「文明一揆」(文明六・七年)と称するものである。

門徒の主導は下間安芸蓮崇であつた。彼は若年の頃蓮如上人に見出され、いわば子飼いの門弟であつたが、謀略により門徒を扇動したのであつた。

蓮如上人は、武力行動を極力嫌われた方で、蓮崇に欺かれたことにより、息子の周囲の意見を聞き入れ蓮崇を勸当した。同時に、上人がこれ以上吉崎に在ることの影響を考慮して、ほぼ四年余の滞在に終止符を打たれ



た。時に文明七年八月であつた。海路若狭小浜に上陸され、ここにしばらく滞在され、丹波路を南下されたが京都へは戻られず、河内国茨田郡出口を布教の拠点にされることになる。

しかし、この吉崎での布教が蓮如上人にとって、また後の本願寺教団にとっても大きな意義をもつことになったといえよう。

赤色赤光

「秋の夜長をどう過ごすのか。」そんなことを考える暇のないほど慌ただしい生活を送っていると、季節感すら感じる事が少ない▼褐色に色を変えた落ち葉の舞落ちるのを眺めていると、愁いを感じることもある。と同時に天高く馬肥ゆる秋であり、稔りの秋である。そして食欲の秋、スポーツの秋であり、そこには躍動的な秋もある▼しかし、静かで暗く涼しげな秋の夜長となれば、自分ひとりだけの落ち着いた時を過ごすことになる。物思いにふけるもよし、音楽に耳を傾けるもよし、本を読みふけるもよしと思う▼昔は秋の夜とともに凜とした月の輝きがあつた。十五夜の月にスキをいけ、団子を置き、ウサギの餅つきのお話を語りながら長い夜を過ごしたものだ

が、昨今は同じ月でも、月に群雲か?何やらモヤッとしている。経済は金融が破綻し、景気は低迷、銀行は貸し渋り、中小企業は倒産の憂き目、高齢化社会は進み年金問題も深刻である。いよいよ世情は混沌として、どちらを向くかわからない▼この際、時間を自然に委ねてゆったりと保ち、秋の夜長に自分自身を深く見つめ直すこととしたら如何であろうか。つきかげのいたらぬさとは／なけれども／ながむるひとの／ころろにぞすむ。現代人はどんな心で月を見ているのだろうか。(N)

# ゴボちゃん



お檀家におまいりに行ったときなどによく「真宗は葬式が短い」とか、「お盆は他の宗派と較べて、お供えが楽でいい」と言われることがある。

## ウォッチング 門徒のたしなみ(1) クローズアップ

### 西尾市唯法寺 おあさじ会

毎朝七時半頃になると、三々五々境内に人が集まってくる。一人がカセットのスイッチを押すと、ラジオ体操の音楽が流れる。晴天なら外で雨模様なら本堂の中で体操する。いつも集まるのは大体十数人。



体操が済むと、いよいよ朝のお勤めが始まる。住職を導師に、正信偈同朋奉讃を勤める。本来なら、この後、決まって御文を読むところだが、こ

### 門徒のたしなみ、は何処へいつてしまったのか?

徒は素朴でキリツとした宗教生活を伝えてきた。先ず、朝のおつとめは欠かさなかった。年寄りからこれが済まねば朝御飯は頂けなかったと、子どもの頃の話を聞く。そして、毎月数回の法座に足を運

び、年に一度は本山に参り、ご真影の前に額づく。このような生活は、単に形式的に受け継がれたのではない。ふだんの聴聞による本性の自覚が根底にあった。すぐに仏法を忘れて分別にとらわれ、尊

ぶべき自己を見失う凡夫。それを自覚すればするほど、いつも仏法に向かうように心がけたのだ。私のために建てられた仏の誓願を憶い、その尊さを受けとめると同時に、自らの浅はかさがよく見

### 特別寄稿 勤行本を世におくる

「三南聲明集」は三南聲明曾が編集し、大正6年に西尾市聖蓮寺(住職泉順恵師)が初版を世に出した。

ようとするのである。そこにはお供え物で供養を済ませようとするのとは較べものにならない厳しさがある。(U)

あかおの道宗、もうされそうろう。「一日のたしなみには、あさつとめかかきと、たしなめ。一月のたしなみには、ちかきところ、御開山様の御座候ところへまいるべしと、たしなむべし。一年のたしなみには、御本寺にまいるべしと、たしなむべし」と云々(以下略)

▲蓮如上人御一代記聞書45



▲三南聲明會のメンバー



から始まり、かれこれ二十年以上毎日欠かさず続けられている。住職不在のとき、門徒さんが調声をとめる事もあったそうだ。

取材に行ったこの日、一人の方からお菓子が配られた。旅先で買ったお土産だそう。こんな気さくな雰囲気、二十年以上上続けられる由縁であろう。(H・N)

宏師の母)によれば、戦前、三河の国はもとより、全国から注文が殺到し、たびたび郵便局へ走ったという。「御遠志・報恩講聲明要集」とあるように、この声明本は戦前・戦後三河の寺々では御遠志(大正時代の親鸞聖人御回忌と昭和20・30年代の蓮如上人御回忌)や例年の報恩講の助音にもてはやされた。確か、(青年会用)と銘打ったものも発刊されていたかと思う。筆者の記憶では、昭和40年前後までこの声明本を朝夕の勤行に用いない門徒宅はないほど一般門徒張り上げて練習した。

大正13年に改版され、昭和9年の重版本には「拾版発行」とある。昭和31年、泉順恵師が亡くなるが、その直前まで版を重ねたに違いない。西尾市無量寿寺の住職(大河内了雲師)が三南聲明曾のメンバーの中心人物であったように聞いている。

筆者にとって、まことに懐かしい本の一つである。

- ◆毎月13日・28日 晨朝法話
- ◆12月17日・1月19日 他月一回 真宗講座「歎異抄」 野田風雪師
- ◆12月11日・1月20日 他月一回 聖典学習会「浄土和讃」 櫻部建師
- 報恩講 11月14日・16日
- 14日午後一時半 青木順正師
- 15日午前・午後 櫻部 建師
- 16日午前・午後 和田法雄師
- ◇12月31日深夜・1月1日 皆様に除夜の鐘を撞いて頂きます。
- ◆1月1日 修正会
- ◆1月14日・15日 双全講
- ◆3月18日・24日 春季彼岸会
- ◆4月11日・12日 報徳会
- ◇赤羽別院では毎朝七時から朝勤行に十数人の「おあさじ会」ができております。多くの皆様の参加をお待ちしています。
- 「赤羽御坊」協賛者芳名
- ▼岡崎市(株)教育広報センター
- ▼一色町教栄寺▼西尾市願正寺同行▼岡崎市興運寺▼西尾市お仏壇の四相▼一色町本浄寺▼一色町養林寺▼西尾市光明寺▼以上初披露分
- ▼本龍寺▼隆勝寺▼上矢田町浄徳寺▼正向寺▼明栄寺▼泉攝子
- ▶以上前掲披露分
- 編集後記
- 十月中には印刷を終え、配布の予定であったが、大幅に遅れて、まことに残念▼聞き取りを文字に表現すると、その響きが十分に伝わらない。時々失礼な表現があるかもしれません。ご容赦を。
- 「赤羽御坊」発行の協賛志を募集しています。